

## 第2回 3大学合同カンファレンスに参加して

平成26年8月6日、東京女子医科大学病院にて第2回、三大学合同カンファレンスが開催されました。これは、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランに選定された東京女子医科大学、杏林大学、帝京大学、駒澤大学のうち、緩和医療の領域に携わる三大学附属病院緩和ケアチームによるカンファレンスです。今回は東京女子医科大学から15名、杏林大学から3名、当院からは医師3名、看護師2名の5名で多職種総勢23名が参加しました。

「大量のオピオイドのコントロールに成功した肺がんの1例」を東京女子医科大学緩和ケアチーム薬剤師の川辺桂太郎先生から、「超大量のオピオイドを使用し鎮痛に苦渋した胸壁腫瘍の一例」を東京女子医科大学がんセンター緩和ケア室、兼村俊範先生から講演をいただきました。

がん性疼痛の管理に大量オピオイドを必要とする症例は鎮痛薬の種類が増えた最近では以前に比べ、少なくなっているように感じます。

討論では、各施設での経験に基づき、疼痛評価、鎮痛補助薬の選択と使用法、ブロックや放射線治療について話し合われました。

治療に難渋した症例を皆で討論し、共有することで、苦労が軽減すると共に、今後同様の症例を目にしたときにより良い症状緩和を行うことが可能となるように感じます。

次回は杏林大学に担当頂くことになっておりますが、楽しみにしたいと思います。

緩和医療学講座 大澤岳史